

科目名	保育原理						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口直子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	発達療育センターにおいて 保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	1. 保育とは何か～なぜ人間の子どもにとって保育が必要なのかを考える 2. 子どもにとっての遊びの意義を考える 3. 現代の子どもを取り巻く環境について考える 4. 幼稚園・保育園・その他の児童施設での保育の役割について考える 5. 保育の歴史、子ども観の歴史について学ぶ 6. 様々な保育実践を知る 7. 保育士の専門性について考える						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					人間の子どもにとって保育の必要性を説明できる	
	○					子どもにとっての遊びの意義を説明できる	
	○					現代の子どもを取り巻く環境と子育て支援体制について説明できる	
	○					保育思想と保育の歴史を説明できる	
	○					児童福祉施設の役割、保育士の役割と専門性を説明できる	
○					様々な保育・教育の実際を述べることができる		
テキスト・教材 参考図書	配布レジュメのほか、必要に応じて授業中に紹介する						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション					
	2	子ども権利について					
	3	「保育」の必要性について					
	4	保育における「遊び」を考える					
	5	ミニレポート					
	6	保育思想と子ども観の変遷					
	7	近代保育施設と制度の変遷と発展					
	8	日本における保育所・幼稚園の変遷					
	9	現代社会と保育					
	10	保育のねらいと内容					
	11	発達に応じた保育・環境を通した保育					
	12	生活と遊びを通した総合的な保育					
	13	様々な保育の場と様々な保育実践、内容、形態					
	14	子どもにかかわる仕事～保育者の専門性～					
15	家庭支援と子育て支援・まとめ						
評価方法	(1)ミニレポート提出 (2)定期試験 (3)授業態度・提出物等 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	宿題・レポート	○	◎		◎		30%
	授業態度・提出物				◎		20%
履修上の注意							

科目名	保育実習指導Ⅱ(教育課程総論)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山八保子・川原ゆり・若狭恵美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	児童養護施設において保育士として勤務 障害児治療教育センターにおいて相談員として勤務 知的障がい者施設において保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	保育園実習に向け日誌を書く際の視点の置き方や子どもの姿や発達を理解したうえでの指導案の作成方法を知る。また、実習で実施される設定保育に向け保育のシミュレーション等の準備を計画的に進めていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				子どもの姿、保育士の仕事を捉えるための視点を習得する	
		○				自身の考察を踏まえ日誌に記録することが出来るようになる	
		○	○			子どもの発達を考慮した保育指導案の作成が出来るようになる	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	事前実習の振り返り					
	2	様々な保育形態について					
	3	実習における観察、記録及び日誌の記入について					
	4	日誌の書き方、ポイントについて					
	5	事前実習直前指導(目標の設定)					
	6	事前実習振り返り					
	7	日誌の書き方、考察について					
	8	安全管理と健康について					
	9	食事の援助について					
	10	指導案とは、設定保育とは					
	11	指導案の書き方、ポイントについて					
	12	設定保育準備				準備に必要な材料等の準備	
	13	設定保育準備				準備に必要な材料等の準備	
	14	設定保育準備				準備に必要な材料等の準備	
15	実習初日持参書類の確認等、直前指導				実習に必要な書類を持参		
評価方法	①授業参加状況 ②発表 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業参加状況	○	◎		◎		40%
	発表		◎		◎		30%
	取り組み	○	◎		◎		30%
履修上の注意	欠席の場合授業で配布された書類は各自で取りに来ること						

科目名	音楽表現Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	森田 ゆかり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科・2年						
授業概要	1・ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。 2・音楽の基本的な理解と、音楽活動での様々な楽器の習得を目指します。 3・歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力・チームワーク・理解力・向上心)を磨きます。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	○				音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。		
	○				楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。		
		○			歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。		
			○		他者からの助言がなくても、自分で読解し練習することができる。		
			○		自主練によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学 音楽 ピアノ教本 ・近畿大学九州短期大学 音楽 声楽教本 ・みんなのコーラス						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	お披露目コンサート(小テスト) 終了後C,G,F,Dスケールの復習			1年後期に各自選曲したものを練習しておく。		
	2	バイエル73番。テキストから各自選曲したもの。 歌(早春賦・春が来た)合唱(あの素晴らしい愛をもう一度)			半音階の指使いに気を付けて練習しておく。 テキスト曲の予習。		
	3	バイエル73番。ペダルの導入(よるこびの歌) 歌(春の小川・愉快な牧場)合唱(あの素晴らしい愛をもう一度)			右手の重音をなめらかに弾けるよう練習しておく。 テキスト曲の予習。		
	4	バイエル73番。ペダルの導入(よるこびの歌) 歌(荒城の月・ずいずいずっころばし)合唱(あの素晴らしい愛をもう一度)			ペダルを踏むタイミングと離すタイミングの練習。 バイエル、テキスト曲の予習。		
	5	バイエル96番へ進む。引き続きペダルの導入(よるこびの歌) 歌(見上げてごらん夜の星を・黄金虫)合唱(あの素晴らしい愛をもう一度)			へ長調と8分の3拍子の復習。 ペダルの練習。		
	6	バイエル96番。ペダルの導入(よるこびの歌) 歌(この広い野原いっぱい・金魚の屋敷)合唱(あの素晴らしい愛をもう一度)			96番の形式AA'BAA'を理解し効率よく練習する。 ペダルの練習。		
	7	バイエル96番。ペダルの導入(よるこびの歌) 歌(おなかのへるうた・あんたがたどこさ)合唱(あの素晴らしい愛をもう一度)			96番(左右のメロディの入れ替わりを意識して練習) ペダルの練習。		
	8	バイエル96番。テキストも同時に進める。ペダル仕上げ。 歌(白いブランコ・夕焼け小焼け)合唱(あの素晴らしい愛をもう一度)			96番(AA'&Bの曲調の違いを意識しメリハリを付ける練習)ペダルの練習。		
	9	小テスト(よるこびの歌を弾きながらペダルを正確に踏む) 終了後96番。歌(テントウ虫のサンバ・赤とんぼ)時間があれば合唱。			小テストのためのペダル練習。 96番練習。各自テキスト曲の予習。		
	10	バイエル96番。各自選曲したテキスト曲。 歌(いい日旅立ち・アルプス一万尺)合唱(あの素晴らしい愛をもう一度)			ピアノ実技試験に向けて96番仕上げ。 歌の試験に向けて課題曲の練習。		
	11	バイエル96番。各自選曲したテキスト曲。 歌(南の島のハメハメハ大王・この道)合唱(上を向いて歩こう)			ピアノ実技試験に向けて96番仕上げ。 歌の試験に向けて課題曲の練習。		
	12	ピアノ実技試験と歌唱試験に向けての練習。リハーサル。			ピアノ実技試験に向けて96番仕上げ。 歌の試験に向けて課題曲の練習。		
	13	ピアノ実技試験(バイエル96番。) 歌唱試験(荒城の月 もしくは おなかのへるうた)			各自ピアノ曲予習。		
	14	バイエル100番へ。テキスト曲各自選曲したもの。 歌(若者たち・通りゃんせ)合唱(上を向いて歩こう)			装飾音の練習。 左手の小指を残しながら弾く練習。		
	15	バイエル100番。テキスト曲各自選曲したもの。 歌(切手のない贈り物・もみじ)合唱(上を向いて歩こう)			バイエル100番(左右の手を交差させて弾く練習) テキスト曲の予習。		
	16	バイエル100番。各自選曲したテキスト曲。 歌(里の秋・想い出の渚)合唱(上を向いて歩こう)			バイエル100番(同じ音を指替えしながら弾く練習) テキスト曲の予習。		
	17	バイエル100番。各自選曲したテキスト曲。 歌(太陽がくれた季節・夏の思い出)合唱(上を向いて歩こう)			バイエル100番(強弱で曲のメリハリを付ける練習)		
	18	バイエル100番。各自選曲したテキスト曲。 歌(旅人よ・翼をください)合唱(上を向いて歩こう)			バイエル100番(音の流れを意識し曲想を付ける練習)		
	19	バイエル100番。実技試験に向けて仕上げ。 歌(小さい秋みつけた・クラリネットこわしちゃった)合唱(上を向いて歩こう)			実技試験に向けての練習。 余裕があればテキスト曲も練習する。		
	20	バイエル100番。実技試験に向けて仕上げ。 合唱(上を向いて歩こう)			実技試験に向けての練習。 余裕があればテキスト曲も練習する。		
	21	バイエル100番。実技試験に向けて仕上げ。 合唱(上を向いて歩こう)			実技試験に向けての練習。 余裕があればテキスト曲も練習する。		
	22	ピアノ実技試験練習。リハーサル。			実技試験に向けての練習。 余裕があればテキスト曲も練習する。		
	23	ピアノ実技試験(バイエル100番)			修了コンサートで弾きたい曲があればピックアップしておく。		
24	修了コンサート担当講師発表・曲決め・話し合い			修了コンサートで弾く曲の自主練習。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)ピアノのテキスト曲を各自選曲しながら進めていく。 (3)歌唱試験を1回実施する。(4)ピアノ実技試験を2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		ピアノ表現	歌唱表現	演奏技術	楽典理解	自主実行力	評価割合
	定期実技試験	◎	◎	○	○		80%
	小テスト			◎	○		10%
	課題進度					◎	10%
履修上の注意	出席が17回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	教職概論								
科目名(英)	teaching concept								
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原 ゆり				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	社会福祉科2年生								
授業概要	社会福祉科では保育所の保育士だけではなく、「施設保育士」を養成することを目標としている。「保育」とは教育と養護を併せ持つ概念であり、「保育士」を取得するということは「教育者」であるという視点が必要である。教育とは何か、子どもにとって教師とは何か、教師の歴史、指導の方法と考え方、職務内容など、教職についての理解を深め、どのような教師として成長したらよいかという「問い」に自分で答えが見つけれられるようにする。また、社会福祉の「人財」として求められる「問題解決能力」を培うためには、現代社会の問題を学習し理解することで、教育者になるための基礎を作る良いきっかけとする。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○			△		教育とは何かを理解し、児童に関わる仕事は、「教育者」であるという視点を持つ。			
	○			△		保育所実習に向けて、現代の子育てに関する問題点と対策を知る。			
	○			△		施設実習に向けて、子どもに関わる上での考え方や知識を得る。			
	○			△		児童に関わる職員(福祉職)に求められる資質や態度を理解する。			
○			△		現代の子どもたちの置かれた状況に関心を持ち、知識を広げる。				
テキスト・教材 参考図書	新訂 教職入門～未来の教師に向けて 古橋和夫[編](萌文書林)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	教職とは何か?～イントロダクション							
	2	教職とは?保育と教育の関係は?							
	3	保育とソーシャルワーク							
	4	現代社会と保育所の役割							
	5	現代社会と保育所の役割							
	6	現代社会と保育所の役割							
	7	現代社会と保育所の役割							
	8	現代社会と保育所の役割							
	9	現代社会と保育所の役割							
	10	現代社会と保育所の役割							
	11	現代社会と保育所の役割							
	12	現代社会と保育所の役割							
	13	現代社会と保育所の役割のまとめ							
	14								
15									
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)課題の提出や意見の発表・グループワーク等での意欲・態度と内容の理解度。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				60%		
	課題の提出	◎	◎				20%		
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		10%		
	出席状況				◎		10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	健康科学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	・WHOの健康の定義を理解し、現代社会の健康阻害要因について考える						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○		○			自分の体を知る	
			○			体のゆがみ・味覚障害・ドライアイ	
	○		○			栄養の過剰と隔たり	
テキスト・教材 参考図書	生涯スポーツ・健康科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	健康の概念(WHOの定義)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	現代社会の健康阻害要因			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	運動不足の実態			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	体力の構成要素			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	運動の種類・自覚的運動強度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	アルコールパッチテスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	歯磨き指導			歯磨きセットを持参すること		
	8	自分の体を知る			タオル、靴下を持参すること		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト			◎		○	10%
	宿題・レポート						
	発表・作品					○	10%
	レポート・科目試験	◎	◎		◎		80%
履修上の注意	レポートが未提出の場合は科目試験の受験資格を与えない						

科目名	言葉Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	保育において不可欠な「子どもとの関わり方」について具体的な実践方法について検討し、その内容を実践する。具体的には、複数学年による「子ども食堂」の運営を通じて実践に向けて学科内のコミュニケーションから準備するとともに、実際の現場を通じて、子どもたちとの関わりについて経験を積むことで、実践する力を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					子どもたちの安全性を最優先事項とし、他学科・グループにて議論した上で計画を立案することができる。	
		○				各年令における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた骨子案を計画することができる。	
				○		積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子ども食堂の計画・準備			事前に計画の概要を立案し、他の学年へ提示し準備を円滑に行うことができるようにしておく。		
	2	子ども食堂の準備(グループ毎に)					
	3	子ども食堂の準備(グループ毎に)					
	4	子ども食堂の準備(グループ毎に)					
	5	子ども食堂の準備(グループ毎に)					
	6	子ども食堂の準備(グループ毎に)					
	7	子ども食堂の準備(グループ毎に)					
	8	子ども食堂の準備(グループ毎に)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品・運営	○	○	○	◎		50%
	グループでの協力状況				◎		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	交流ゼミⅡ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。	
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。	
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。	
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。	
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介					
	2	グループ内でのレクリエーション					
	3	グループ内でのレクリエーション					
	4	グループ内でのレクリエーション					
	5	グループ内でのレクリエーション					
	6	グループ内でのレクリエーション					
	7	社会福祉科「交流会」に向けての準備					
	8	社会福祉科「交流会」に向けての準備					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。						

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	現在の日本の象徴とも言える「少子高齢社会」の実情を理解し、来たる2025年にむけて福祉の専門職として知っておくべき事項を学ぶことで、社会福祉士として地域社会で活躍するための準備をし視野を広げる。 高齢者支援の分野について興味を持ち将来の進路決定の参考となるようなタイムリーな情報を知ることができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		少子高齢社会の現状を知り、考えや意見を述べるができる。	
	○	○		○	○	代々語り継がれてきた文化や言葉等について学び、次の世代へも語り継いでいく。	
	○	○		○	○	高齢者が生きてきた時代を知り、その内容を今後の実習に活かせるようになる。	
	○	○		○	○	生活の豊かさや平和について考え、相手の立場に立つ・尊敬の保持を意識して過ごすことができる。	
○	○		○	○	命の尊さや人権について学び・考え・行動することができる。		
テキスト・教材 参考図書	◎『よくわかる高齢者福祉』 直井道子・中野いく子 編 ミネルヴァ書房 ○時事話題 ○介護保険関係資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・アンケート記入			この科目の注意事項を伝えます		
	2	知識チェック 解答解説 その1			前回のプリントを忘れないように		
	3	知識チェック 解答解説 その2			第1回目のプリントを忘れないように		
	4	GW特集、母の日を考える			GW過ごし方を大切に		
	5	これまでの自分を振り返る			過去を振り返る		
	6	セルフライフプラン ～「生きる」とは？ 当たり前の暮らし			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	20xx年問題			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	高齢者福祉の入り口 と 専門用語			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	老化・エイジングについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	生活とは？ QOLとは？			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	介護・福祉について 支援の理念と価値			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	高齢者に関わる専門職の役割・魅力			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	高齢社会対策基本法 理念とソーシャルワーク			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	ソーシャルワーカーの倫理綱領			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
15	まとめ 振り返り						
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト・レポート	◎	○				10%
	グループワーク・発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	子どもの食と栄養						
科目名(英)	Child Nutrition						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	大仁田 あずさ		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	平成30年度に「保育所保育指針」が改訂施行され、子どもの五感の育成をめざした食環境の構築など、施設全体で連携してさらなる食育の充実を図ることが求められている。本科目では、子どもの栄養・食生活が生涯にわたる健康と生活の基盤であることを理解し、さらに、栄養の基本的知識や発育・発達段階に応じた適切な栄養摂取と健康な食事のあり方を学ぶ。また、保育における食育の意義や現在、深刻化している食物アレルギーなどの特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応についても理解を深める。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用について説明できる。	
	○					乳児期、幼児期、学童期・思春期の各時期における栄養・食生活について説明できる。	
		○				保育における食育の意義とその実践について具体的に述べるができる。	
				○		食物アレルギーを正しく理解することにより、給食での安全な対応ができる。	
				○		保育者として、子どもたちに正しい食育を実践するために、自身が健康で豊かな食生活を実現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	二見大介、高野陽 編著 『子どもの食と栄養』 北大路書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どもの心身の健康と食生活の意義-子どもの食生活の現状と課題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	栄養に関する基本的知識-栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント-妊娠期・授乳期の栄養・食生活			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活-乳汁栄養、離乳の意義とその実践			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	幼児期の心身の発達と食生活-幼児期の食生活の特徴、間食の意義とその実践			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	学童期・思春期の心身の発達と食生活-学童期・思春期の食生活の特徴、学校給食の重要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	食育の基本と内容・方法-保育における食育の意義とその実践			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	家庭や児童福祉施設における食生活と栄養			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養-食物アレルギー、障がいのある子どもへの対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	児童家庭福祉						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	児童をとりまく現在の環境や現状の把握、また、これまでの歴史や児童家庭福祉にまつわる制度や施策を学ぶ。 またはこどもを取り巻く現在の課題や保育						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変換について理解する	
	○					こどもの人権擁護について理解する	
	○					こども家庭福祉の制度や実施体系について理解する	
	○					児童家庭福祉の現状と課題について理解する	
○	○					児童家庭福祉に関わる機関及び施設の概要とそのサービスについて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	児童家庭福祉 こどもと家庭を支援する[第3版] 大津泰子著 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション こども家庭福祉とは			教科書の当該範囲を読んでおく		
	2	現代社会とこども家庭福祉①			教科書の当該範囲を読んでおく		
	3	現代社会とこども家庭福祉② 諸外国の子育て支援			教科書の当該範囲を読んでおく		
	4	こどもを取り巻く社会環境の変化の方向性			教科書の当該範囲を読んでおく		
	5	こども家庭福祉のあゆみ			教科書の当該範囲を読んでおく		
	6	こども家庭福祉に関連する法律			教科書の当該範囲を読んでおく		
	7	こども家庭福祉サービスの動向			教科書の当該範囲を読んでおく		
	8	保育サービスの多様化			教科書の当該範囲を読んでおく		
	9	保育所における保育サービス			教科書の当該範囲を読んでおく		
	10	認定こども園について			教科書の当該範囲を読んでおく		
	11	こどもと家庭を取り巻く問題① 待機児童			教科書の当該範囲を読んでおく		
	12	こどもと家庭を取り巻く問題② こどもの虐待 DV			教科書の当該範囲を読んでおく		
	13	養護を必要とするこどもへの施策			教科書の当該範囲を読んでおく		
	14	外国籍のこどもの支援			教科書の当該範囲を読んでおく		
15	まとめ 正試験対策 プレテスト			教科書の当該範囲を読んでおく			
評価方法	(1)授業用ノートの提出の実施(1回)(2)宿題・レポートを数回実施 (3)定期試験を実施する。 成績評価基準は定期試験の点数と平常点を平均し、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					60%
	宿題・レポート・提出物	○	◎		◎		15%
	出席・授業態度				◎		25%
履修上の注意	欠席が5回以上の場合には定期試験の受験資格を失う。授業用のノートかファイルを用意する事。						

科目名	相談援助演習Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 2年生						
授業概要	これまでの相談援助実習を踏まえた上で児童福祉施設での実習に備えての準備を実施することができる。とりわけ、保育士のための視点ではなく、福祉専門職として「相談援助」の視点も踏まえて児童福祉施設とその対象者を理解することができる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					児童福祉施設の種類や位置づけについてさらに理解を深めることができる	
		○				他グループの発表を踏まえて、知識を共有するとともに、新たな情報を吸収することができる。	
				○		自主的に学び、理解を深めることができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童福祉施設の内容を調べてまとめる(インターネット・書籍にて)					
	2	児童福祉施設の内容を調べてまとめる(インターネット・書籍にて)					
	3	児童福祉施設の内容を調べてまとめる(インターネット・書籍にて)					
	4	児童福祉施設の内容を調べてまとめる(インターネット・書籍にて)					
	5	中間発表(各グループ・テーマに沿って、調べた内容をプレゼンテーション)					
	6	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する(中間発表の内容に修正を加える)					
	7	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する					
	8	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する					
	9	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する					
	10	児童福祉施設の内容を調べたまとめたものを発表する					
	11	実習に向けのシュミレーション準備(各種の施設別のロールプレイ)					
	12	実習に際しての着眼点や表現方法についての確認					
	13	実習に際しての着眼点や表現方法についての確認					
	14	実習に際しての着眼点や表現方法についての確認					
15	まとめ・振り返り						
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況	○		◎			70%
	積極的な参加状況				◎		20%
	提出物						10%
履修上の注意	10回未満の出席状況の場合、単位の付与を認めない。						

科目名	相談援助実習指導Ⅲ						
科目名(英)	Learning of Social Work Training Ⅲ						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科・1年生						
授業概要	相談援助実習に向けての応用的な知識を身につけるとともに、実習に向けてのより実践的な準備を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○						
	○						
	○						
	○						
学習目標 (到達目標)	目標 PDCAサイクルとケアマネジメントの理念を理解することができる。 ケアマネジメントの一連の流れ(インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング)の論理について理解することができる。 アセスメント→プランニングの考え方を理解し、実際に計画を立案することができる。 相談援助実習を行う施設について理解を深めることができる。 相談援助実習Ⅰ・Ⅱにむけて、書類だけではなく、気持ちの面でも準備することができる。						
テキスト・教材 参考図書	配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション(実習のスケジュールについての確認)					
	2	ソーシャルワークとは?～実践者の取り組みを通じて考える～					
	3	ソーシャルワークとは?～目指す方向性について考える～					
	4	ケアマネジメントについて～理論と仕組みについて PDCAサイクル～					
	5	アセスメント・ケアプランについて(理論解説編)①					
	6	アセスメント・ケアプランについて(理論解説編)②					
	7	アセスメント・ケアプランについて(実践編)①					
	8	アセスメント・ケアプランについて(実践編)② 発表					
	9	日誌の作成について					
	10	実習Ⅰ 実習生調査表・計画書の作成① ガイダンス			実習生調査票を各自で完成させておく		
	11	実習Ⅰ 計画書の作成① 作成1			計画書の下書きを各自で行った上で授業に臨む		
	12	実習Ⅰ 計画書の作成② 作成2 → 個人面談の予定へ					
	13	実習Ⅰ 必要書類の準備・確認、不安な点を解消する			各自で実習時に必要な書類の手配を済ませておく		
	14	相談援助実習Ⅰの振り返り①					
	15	相談援助実習Ⅰの振り返り②					
	16	アセスメント・プランニング 実践 ～クラスメイト編～ ①					
	17	アセスメント・プランニング 実践 ～クラスメイト編～ ②					
	18	アセスメント・プランニング 実践 ～クラスメイト編～ ③(発表)					
	19	実習Ⅱ 計画書の作成③ 作成1(実習Ⅰの状況を踏まえて)			計画書の下書きを各自で行った上で授業に臨む		
	20	実習Ⅱ 計画書の作成④ 作成2(実習Ⅰの状況を踏まえて)			計画書の下書きを各自で行った上で授業に臨む		
	21	実習Ⅱ 計画書の作成⑤ 作成3(実習Ⅰの状況を踏まえて)			計画書の下書きを各自で行った上で授業に臨む		
	22	日誌の作成について②					
	23	実習Ⅱ 必要書類の準備・確認、不安な点を解消する					
24	実習直前指導						
評価方法	(1)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。(2)授業の内容にそった提出課題とレポートを課すこととし、その内容と提出状況を評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・授業参加度				○		60%
	提出課題	○					20%
	レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価を受ける資格を与えない。						

科目名	造形表現(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岡山 直之		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	造形の基礎を踏まえた上で作品の制作を行い、保育現場における造形・表現方法についての理解を深める。その中で、身近な素材を用いた造形活動を実践し、作品制作後は発表とその内容についての振り返りを行うことで、更に学びを深いものにできることを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		自己表現する能力を深めることで、豊かな感性と人間性を身につける事ができる。	
	○			○		個性的な表現力のために、思考能力を発揮し、自己の又草・言葉で説明できるよつになる。	
	○					明確な狙いを持って、保育現場で実践することが可能な教材を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	これまで学んだ技法を用いて、作品制作の計画を立てる。			作品をイメージ化しておく		
	2	作品を用いての表現のみならず、言語的な表現も含めての表現方法を模索する。			おおまかな流れ、起承転結を考えておく		
	3	作品を用いての表現のみならず、言語的な表現も含めての表現方法を模索する。					
	4	作品を用いての表現のみならず、言語的な表現も含めての表現方法を模索する。			発表に向けてのイメージを膨らまし、シュミレーションを積み重ねることで具現化する。		
	5	2日目 発表の準備					
	6	2日目 発表の実施			発表の仕方(衣装、音楽、発声等)を工夫しておく		
	7	2日目 発表の実施			発表の仕方(衣装、音楽、発声等)を工夫しておく		
	8	発表・まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品	○	◎		◎		70%
	レポート	◎	○		◎		30%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	低所得者への支援は高齢、児童等分野を問わず必要不可欠な状態であり、日本の貧困問題は年々深刻さを増している。この科目では、貧困・低所得の概要や支援等を生活保護制度を含めて学んでいく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				生活保護制度の概要について説明することができる	
		○				貧困の定義、要因を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	貧困の理解					
	2	公的扶助の概念					
	3	公的扶助制度の歴史(諸外国)					
	4	公的扶助制度の歴史(日本)					
	5	低所得者に対する支援制度					
	6	生活保護制度の目的、基本原理、財源					
	7	生活保護の種類と内容Ⅰ					
	8	生活保護の種類と内容Ⅱ					
	9	生活保護制度における専門職の役割、他職種との連携					
	10	生活保護の最近の動向と課題					
	11	ホームレス対策					
	12	施設見学					
	13	施設見学					
	14	見学振り返り					
15	全体のまとめ						
評価方法	(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				90%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	発達心理学						
科目名(英)	developmental psychology						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	江崎 百美子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	この講義では、人間の発達について理解を深めることを目指します。乳幼児期、児童期、青年期までの各段階の特徴を、知覚と運動、知能と言語、感情、遊びと社会性などの観点から説明します。成人期、高齢期の発達特徴と課題について「生きがい」と関連して説明します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					発達には段階があり、各段階にはそれぞれ発達上の課題があることを理解する。	
	○	○				発達の多様性について理解することができる。	
		○		○		発達上の課題を効果的に支援する方法について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト 発達心理学～乳児期から老年期まで～ 近畿大学九州短期大学</li> <li>・参考資料等、適宜配布する</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	発達心理学とは、発達のとらえ方 遺伝と環境				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	現代の発達理論				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	運動発達、身辺自立				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	言語の発達、コミュニケーション				教科書の街頭範囲を事前に読んでおくこと	
	5	感情の発達、遊び				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	社会性の発達 対人関係、母子関係、愛着				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	自己概念(仲間関係)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	自己概念(セルフイメージ)				教科書の街頭範囲を事前に読んでおくこと	
	9	青年期の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	成人期、高齢期の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	成人の特徴と生きがい				教科書の街頭範囲を事前に読んでおくこと	
	12	心理検査について(発達検査、認知症検査)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	高齢期の特徴とデスエデュケーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	心理的アプローチと支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	自己分析、全体の振り返り				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中でワークプリント作成を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	ワークプリント	◎	◎		◎		20%
	ワーク結果発表	○	◎		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	保育実習指導 I						
科目名(英)	Guidance to Child Care Field Study I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 2年生						
授業概要	これまでの保育園一日体験を踏まえ保育園の社会的役割や成り立ちの違いを正しく理解する。特に0、1、2歳児の細かな発達の違いや連続性、以上児への発達のつながりを理解し、実習の中で実践と知識をつなげより理解を深めるための基礎を培っていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	◎				保育実習の目的を正しく理解する	
		◎				「保育園の役割」について正しく理解し説明することが出来る	
		◎	◎			保育園訪問にあたっての電話や訪問のマナーを理解し実践できる	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション、実習の目的について					
	2	保育実習の流れについて(見学実習・事前実習・単位実習の意義)					
	3	実習生調査票について、調査票の記入について①					
	4	実習生調査票について、調査票の記入について②				実習施設への電話の掛け方、電話のマナーについて	
	5	実習が可能な施設の種類について・見学実習先のリストアップ				保育園の情報収集を行っておくこと	
	6	見学実習先の最終候補の選定について				前回の授業でのリストアップを踏襲する	
	7	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得①					
	8	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得②					
	9	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得③					
	10	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得④					
	11	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑤					
	12	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑥					
	13	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑦					
	14	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑧					
15	見学実習に向けての最終確認(必要書類)						
評価方法	①授業態度 ②提出物 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	提出物	◎			◎		20%
	取り組み		◎		◎	○	30%
履修上の注意	出席が6回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	幼児体育Ⅱ						
科目名(英)	Infat Physial EducationⅡ						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	水上勝彦		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科・2年生						
授業概要	幼児の運動あそびの必要性を知るとともに、発達・能力を把握する。また、運動あそびの展開及び運動の補助、安全管理や体育指導を身につける						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			マット運動の補助ができるようになる。	
			○			跳び箱運動の補助ができるようになる。	
			○			鉄棒運動の補助ができるようになる。	
			○			逆上がり(個人)ができるようになる。	
			○			外遊びの指導・展開ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	近畿大学・「幼児体育」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	幼児体育の必要性について				実技活動のできる服装の準備	
	2	跳び箱運動の安全な補助について				実技活動のできる服装の準備	
	3	鉄棒運動の安全な補助について				実技活動のできる服装の準備	
	4	跳び箱運動の安全な補助について				実技活動のできる服装の準備	
	5	鉄棒運動の安全な補助について				実技活動のできる服装の準備	
	6	外遊び・ゲーム等を知らせる				実技活動のできる服装の準備	
	7	外遊び・ゲーム等を知らせる				実技活動のできる服装の準備	
	8	実技テスト・レポート				実技活動のできる服装の準備	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	①授業への取り組み方(服装等についても)評価する。 ②授業中の各種目についてもテストを行う。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験			◎			70%
	小テスト			○			10%
	宿題・レポート			○	◎		10%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	①出席が6回に満たない場合は単位の修得は認めない。 ②服装においても運動に適さない場合、改善の余地がない場合は①と同様とする。						

科目名	図画工作Ⅱ						
科目名(英)	art representation						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	屏賀 一男		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 2年						
授業概要	幼稚園教諭や保育士として、あるいは障害者施設や高齢者施設に必要な分野の実技基礎演習を実践する。各分野に於ける造形の専門的知識や色彩・構図・教材の特性を知るうえで、平面表現・立体表現を問わず、教材・用具の使い方と安全確保・後片付けについて学ぶことは不可欠である。また、現代の時流に合った教材を用いた具体的な実践演習、造形表現教育についても理解する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					美術に対する苦手意識を克服することで現場での自分の役割を理解することができる。	
	○					図画・造形表現を体験することで、画材・教材の特徴・性質を理解することができる。	
	○					日本古来の伝統工法を体験することで、感受性・創造力・集中力を養うことができる。	
	○					個性的な表現力のために、思考能力を発揮し、自己の又早・言葉で説明できるよつになる。	
○					自己表現する能力を深めることで、豊かな感性と人間性を身につける事ができる。		
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学 図画工作						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	フィンガーアート			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	2	スクラッチ画			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	3	ウエルカムボード①			今回の授業を踏まえ、制作部品を考案する。		
	4	ウエルカムボード②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	5	色紙による感情表現			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	6	マーブリング染め			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	7	ダンボールアート①			今回の授業を踏まえ、制作部品を考案する。		
	8	ダンボールアート②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	9	ガラス絵①			今回の授業を踏まえ、制作部品を考案する。		
	10	ガラス絵②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	11	ポスターの制作①			今回の授業を踏まえ、制作部品を考案する。		
	12	ポスターの制作②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	13	ダンボールbox①			今回の授業を踏まえ、グラデーションの練習をする。		
	14	ダンボールbox②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
15	水墨画			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。			
評価方法	(1)レポートを10回以上提出する。(2)作品・レポートが未提出の場合は追加課題を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	○		◎		30%
	発表・作品	○	◎		◎		70%
履修上の注意							

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	社福)野の花学園				
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	社会福祉科 2年								
授業概要	相談援助に必要な理論とは「支援援助の現場を知っている力」、方法とは「伝える力と傾聴する力」である。この授業では障がいのある方、生活困窮者の支援の現場を知っていただき環境を理解することを重点に置き、そのうえで相談事業所の現場の内容、相談の実践をおこなっていく。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					各障がい者福祉サービス事業所の内容を学び、その事業の役割を説明することができる。			
	○					生活困窮者支援の内容を学び、その事業の役割を説明することができる。			
	○					各相談事業所の内容を学び、その事業の役割を説明することができる。			
		○					利用者様から、相談の内容を的確に聞き取れることができる		
テキスト・教材 参考図書	社会福祉法人野の花学園のサービス事業								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	伝える力・聞く力(援助に必要な力を知る)							
	2	障がい福祉サービスの全体像(現在の福祉の事業内容を知る)							
	3	支援援助の実践(就労継続支援事業所)							
	4	支援援助の実践(就労移行支援事業所)							
	5	支援援助の実践(自立訓練事業所)							
	6	支援援助の実践(生活介護事業所)							
	7	支援援助の実践(施設入所支援・共同生活援助事業所)							
	8	支援援助の実践(児童発達支援・放課後等デイサービス事業所)							
	9	支援援助の実践(現場支援員の体験談)							
	10	支援援助の実践(救護ホーム)							
	11	支援援助の実践(利用者様保護者の体験談)							
	12	相談援助の実践(障がい者就労・生活支援センター)							
	13	相談援助の実践(障がい者基幹相談支援センター)							
	14	相談援助の実践(認定調査の体験)							
	15	相談援助の実践(認定調査の体験)							
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験								
	小テスト								
	宿題・レポート								
	発表・作品	◎					100%		
履修上の注意									